

最近、ゴルフは安くプレーできるようになりました。昔は1ラウンド回するのに2万円以上掛かったものですが、この頃は昼食付でも1万円以下のところが多くなりました。庶民のスポーツとなったのでしうか。広大な芝の上を歩き、思い切りクラブを振る、あの爽快感はゴルフをする人でないと味わえません。かく言うわたしはこの7、8年ゴルフをやっています。

鳥羽市で唯一のゴルフ場が、鳥羽カントリークラブであることはご存知のところですが、新しい経営陣はちよつとユニークです。まず第一に、鳥羽市のこどもであれば、練習場は全て無料で、またコー



スが空いていれば、保護者同伴でこども分は無料でプレーさせてくれるそうです。そんなこどもたちの中からプロゴルファーがでるかもしれません。

第二に、カントリーの社員のみなさんにも無料でプレーをしてもらって、しかも1ラウンド回ってくれば、千円のおこずかいがあるということ。さらに、1か月のうちで一番多く回った人には特別賞が出るということです。普通では考えられないことです。経営陣としては、社員のみなさんに楽しんでいただき、ゴルフ場を愛してもらいたい、そしてラウンドをしていて気づいた芝のくぼみは、その都

度直してもらおうという仕組みです。これらの考えは、市民のみなさんや社員のみなさんにゴルフ場に親しんでいただき「わが町のゴルフ場」として発展させたいということでしょう。

いつの時代でも、成長していく会社と衰退していく会社があります。要するに、考え方一つでその業績は変化するということです。

鳥羽カントリーが取り組もうとしていることは、ほかのゴルフ場と一線を画したものであるとして注目されています。市民のみなさんに興味を持っていただき、社員も本気で会社を盛り立てようという気になつてもらえれば、会社の未来は明るいのではないでしょう。過去には、鳥羽市から企業が出てしまうこともありましたが、市民全員で市を盛り立てていく努力が大切であると思います。



月刊誌MOKU(2010年6月号)のなかで、寺田啓佐さん(老舗の造り酒屋『寺田本家』23代目当主)は、微生物について次のように言っています。

「・・・お腹の中には、百兆から千兆の微生物がいますと言われているますが、有害物質を作る大腸菌は悪玉菌として嫌われていきます。ところが、大腸菌を排除してしまうと、善玉菌のビフィズス菌などが働かなくなってしまう。大腸菌のおかげで醗酵が行われ、調和がとれているのです。多様な微生物が存在することに



よって、全体が成り立っているわけですね。

微生物の世界をのぞいてみると、お互いに支え合っている仲間良く生きているように見えるんです。ましてや、相手を蹴落とそうとか、陥れようなんて考えているはずもない。それは、自然に生きる生き物全体についても言えることだと思えます。人間だけが、人より多く、人より早くと競い合い、自分と異なる考えを排除しようと争っている。

僕は、『競争よりも共生だよ。争わなくても生かされるよ』と微生物が教えてくれているように感じます。微生物は、何一つ求めることなく、自分の持ち味を生かして、生命を燃焼させる。彼らは、自分の生命の赴くまま、心地よい方向に向かっていくだけのような気がするんです。きっと、自然の生き物には、生命の喜ぶ生き方がセットされているのでしうね。・・・」

わたしたちも、自然の中で生かされている生き物です。で、「競争よりも共生」という生き方ができるのではないかと思います。

よって、全体が成り立っているわけですね。

微生物の世界をのぞいてみると、お互いに支え合っている仲間良く生きているように見えるんです。ましてや、相手を蹴落とそうとか、陥れようなんて考えているはずもない。それは、自然に生きる生き物全体についても言えることだと思えます。人間だけが、人より多く、人より早くと競い合い、自分と異なる考えを排除しようと争っている。

僕は、『競争よりも共生だよ。争わなくても生かされるよ』と微生物が教えてくれているように感じます。微生物は、何一つ求めることなく、自分の持ち味を生かして、生命を燃焼させる。彼らは、自分の生命の赴くまま、心地よい方向に向かっていくだけのような気がするんです。きっと、自然の生き物には、生命の喜ぶ生き方がセットされているのでしうね。・・・」

わたしたちも、自然の中で生かされている生き物です。で、「競争よりも共生」という生き方ができるのではないかと思います。